

大分類	ご意見
ひと	西浦は高齢化が進んでおり、自分（71才）は地域では若造扱い。息子2人は農業をやらない
	「この機械が壊れるまでは続ける」、「壊れたらやめる」という農家が多いのが現状
	棚田地帯でもあり、後継者がおらず、預かってくれる人も居ない
	中間管理機構に登録して受け手を探してもなかなか見つからない
	現状の経営面積や土地利用型の経営では農大新卒者の雇用等は困難
	定年延長等により（定年帰農等）が進まない
	生産者も高齢化しており、新規就農対策が必要
	防府市は小規模農家が7割を占めており、小規模農家への支援を考えてほしい
	もっと農業に魅力があれば、若い人が入ってきてくれるのでは
	自分は新規就農希望者の現地研修を引き受けているが、なかなか計画通りにいけない状況
	（やさい）部会として新規就農者をどう取り込んでいくのが課題
	就農計画が達成できない者には再指導が必要ではないか
	みかんは5年から30年のスパンで樹を育てる。新規就農者の技術習得や営農の体制づくりが必要
	新規就農者の経営は厳しく、うまくいっている人は少ない
	研修生に指導すると、「農大では違う習い方をした」という者もある。農大研修中にもっと生産者と交流することも必要
	若い畜産農家を育てて欲しい
	（就農先が防府市で良かった）思いを新規就農希望者にPRできればと考える
	防府市で就農して良かったと思っている。作物が育てやすく、子育てにも向いている
	就農給付金で甘えが出ているのではないか
	私は農大で3年間の研修を受けた。新規就農者には、給付金等で1人当たり相当の額の補助金をもらっている
	現在、新規就農者を地域に受け入れて、集落営農法人とタイアップして相互補完ができないか検討している
	我々の予想を超える高齢化に伴う担い手の減少が進んでおり、集落営農も難しい
	防府市に新規就農希望者の受け皿となる会社法人を設立してはどうか
	地域では高齢化等により法人へ農地を預けたいという相談が増加（毎年1～2ha増加）している
	大道地区3法人で法人連携を検討中
	山本の援農隊のように、農大からの労力支援を得られないか（アルバイトでも可能）
農福連携について、積極的に検討してはどうか	
農繁期に人材バンクのような援農組織があればと思う	

もの	(カーネーション) 販売先は市場流通と直売所向けであるが、経営状況は厳しい状況
	(カーネーション) 県外農家で成功している農家はネット販売等に取り組んでいる
	(レザーファン) 九州から名古屋まで広く出荷し市場の評価も高く、固定客も多い
	(レザーファン) 国内流通では外国産80%、国産20%。防府は全国で3番目の産地
	燃料費高騰、資材費の上昇も経営に打撃
	機械更新への支援を期待
	山口市の法人が子実用とうもろこしを生産し、飼料として給与する話がある。防府市でも2~3haで取り組む計画
	飼料米の餌利用も行っている
	(畜産) 自分は小規模経営なので機械投資が難しい状況
	(畜産業に) 新規就農するためには、初期投資や農地確保が困難
	WCSについて、ロールの輸送手段の確保に困っている
	天候等の影響で稲作農家との耕畜連携も難しい
	近年、耕畜連携補助金が半額
	林業の活性化をあわせてお願いしたい
	是非、市に林業専門職を設置して欲しい。県内でも2~3市で設置されている
	農林業の知と技の拠点を契機に林業大学校の設置を希望したい
	公設市場の改革は必要
	公設市場については、出荷量も減少しており、もっと盛り上げて欲しい
	スマート農機は価格が高いことが問題。価格の安いスマート農機の開発に期待
	つくる技術、売る技術が重要。スマート技術を使った販売技術
	畦畔草刈作業の省力化技術に期待
	市内で生産消費が循環できるしくみが必要
	食育の問題に関わっていききたい。学校給食への材料提供
	もうかる農業には差別化しかないと考え、部会でGAP認定を目指している
	「天神みかん」ブランドとして普及
	土地
(牟礼地区は) 都市近郊でもあり、利用権設定期間が終了したら農地が転売されることも多い	
近年、太陽光発電への参入が増加	
地域の農地をどのように守るのか、地域で考える必要がある	
小野地区は小野で守っていこうという姿勢が必要	
行政の支援もお願いしたいが、地域の農業をどうするかは地域で考えないといけない	
森林が荒れて、獣害も多い。獣害対策等への支援も考えてほしい	
牟礼から小野への農道について期待が大きい。早期完成をお願いしたい	
今後、奈美地域で平成32年度採択を目指してほ場整備事業を行う計画	
基盤整備ができておらず、今後進めていく必要あり	
ため池管理が負担(人材不足によるところが大きい)	